

ゴー！ 医見 vol.182 この国の不都合な真実

今回の選挙は教育無償化が争点になりました。少子化対策ということですが、それだけで子供が増えるなどと考えているとしたら見当違いも甚だしいです。「学歴偏重」と「経済至上主義」、それによって生じた「格差の拡大」が根本的原因だと思います。もはや、小手先の対策ではどうしようもないところに来ています。

少子高齢化の誤解

総理は少子高齢化が国難だと言いましたが、公約に掲げたのは少子化対策だけです。あたかも少子化対策が高齢化対策になるかのような「まやかし」をしたわけですが、たとえ子供が1千万人増えたとしても、高齢者が減るわけではありません。少子化と高齢化は全く別の問題です。

2025年問題

2025年には団塊の世代が全員75歳以上になるということで2025年問題という言葉が有名になりました。でも実際にそうなるのは2024年です。人口は2015年よりも390万人減るのですが、75歳以上の人口は490万人増えると言われています。医療費、介護費、年金等の社会保障費は増大、一方で支える世代の人数は減って負担が増大するのです。

多死社会

2016年の死亡者数は130万7765人で戦後最多を更新しましたが、2030年には160万人を超えると予想されています。病院や施設で対応できるのは120万人くらいとされているので、残りの40万人は家で亡くなるしかないということになります。

そのため国は

24時間対応の訪問サービスを中心とした医療や介護・生活支援を一体化して提供する「地域包括ケアシステム」なるものを構想しています。少子化対策のためにどんどん子供を産め、経済成長のために女性もせつせと働け、高齢化対策では在宅介護をし

ろ！と言われ、これでは体がいくつあっても足りません。これが一億総活躍の正体です。

輸血用血液

2012年の東京都の輸血状況調査によれば、輸血用血液製剤の約85%が50歳以上の患者に使用されています。一方で日本赤十字社献血している人の76%が50歳未満ということです。このまま行けば、2027年には輸血用血液が足らなくなってしまうのです。

火葬場不足

2039年には死亡者数が168万近くになりピークを迎えます。実はすでに、場所や時期、時間帯によっては火葬を1週間くらい待たされるケースがあるそうですが、2039年にはこれが深刻になるものと思われます。友引なんかにこだわってられない、場合によっては夜間に火葬なんてこともあり得ます。

以上、色々と怖いことを書きましたが、決して大げさな話ではありません。事実として受け止めるべき、不都合な真実なのです。 参考文献「未来の年表」著者河合雅司

つばさクリニック院長 石川 亨